

組合員向け学習資料

新型コロナウイルスQ&A

医療生協さいたま 新型コロナウイルス対策本部

2021年3月24日



Q1 そもそもワクチンは何のために必要なのですか？

自分がその感染症にかからないため、もしくは、かかっても症状が軽くてすむためという目的があります。これは「個人防衛」と呼ばれます。

また、自分が他の人にうつさないため、つまり、周りの人を守るという目的もあります。これは「社会防衛」とも呼ばれます。高齢者、持病のある方、免疫力の低下している方、妊娠している方たちを守ることとなります。

このようにワクチン接種には、個人としての意味と、社会全体の疾病を減らし健康水準の格差を是正するという公衆衛生学（※1）的な意味があります。

（※1）公衆衛生学：日常の診療が主に個人や家族の疾病を扱うのに対し、公衆衛生学では地域や国全体の疾病を減らし健康度をあげることが目的としています。



Q2 集団免疫とは何ですか？

感染症は、病原体（ウイルスや細菌など）が、その病原体に対する免疫を持たない人に感染することで流行します。ある病原体に対して、人口の一定割合以上の方が免疫を持つと、感染患者が出て、他の人に感染しにくくなることで感染症の流行が抑えられ、結果的に免疫を持たない人も感染から守られます。この状態を「集団免疫」と言い、社会全体が感染症から守られることとなります。今回のワクチン接種によって新型コロナウイルスに対する集団免疫の状態が作られる効果が期待できます。

Q3 新型コロナワクチンの効果は？

ファイザー社（※2）とモデルナ社（※3）の「mRNA ワクチン」は、有効率 90%以上という報告がなされています。例えば、有効率 90%の場合、ワクチンを接種しなかった人のグループでの発症率よりも、接種した人のグループでの発症率の方が 90%少なくなるということです。これは、10 人のうち 9 人の人に有効という意味ではありません。ワクチンを接種しないグループの発症率が 50%だった場合、ワクチン接種のグループの発症率が 10 分の 1 の 5%にまで減るという意味です。アストラゼネカ社（※4）の「ウイルスベクターワクチン」は、有効率が 60%~90%という報告がなされています。これらのワクチンは、変異株に対しても効果があるという報告もあります。

どのくらい効果が持続するか、人種によって違いがあるかなどは評価ができていません。

（※2）ファイザー社：アメリカに本社のある製薬会社。

（※3）モデルナ社：アメリカに本社のあるバイオ医薬品メーカー。

（※4）アストラゼネカ社：イギリスに本社のある製薬会社。



Q4 新型コロナワクチンの副反応は？

ファイザー製のワクチンでは、注射した部位の反応として 70%~80%の頻度で痛みが発生します。1 回目接種後の約 30%、2 回目接種後の 15%に、日常生活に支障が出る中等度以上の痛みが報告されています。それ以外にも倦怠感、頭痛、寒気、嘔気・嘔吐、筋肉痛などの頻度が高くなっています。

発熱（38℃以上）は 1 回目では少ないですが、2 回目の接種後に 10%~17%みられています。高齢者よりも若年群で頻度が高い傾向がみられます。

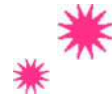
血管迷走神経反射（注射針を刺したことなどがきっかけとなって血圧が下がり脈が少なくなる）は、他のワクチンと同様に一定頻度での発生が予測されます。

ごくまれに、接種直後のアナフィラキシーショック（※5）などの重篤な副反応が発生します。インフルエンザワクチンよりも頻度が高いとされており、接種後 15 分~30 分の経過観察が必要とされています。

モデルナ製ワクチン、アストラゼネカ製ワクチンでも、頻度の違いはありますが似たような副反応が報告されています。

（※5）アナフィラキシーショック：

アレルギー（アレルギー反応の原因になるもの）が体の中に入ることによって起こされる全身性のアレルギー反応で、血圧の低下や意識の低下を伴うもの。食品、薬物、蜂に刺されるなどが原因となる可能性があります。



Q5 長期的な副反応は？

「mRNA ワクチン」も「ウイルスベクターワクチン」も、新しいタイプのワクチンで人に実用化されるのは初めてです。したがって、長期的な副反応に関しては評価されていません。

Q6 ウイルスの遺伝情報であるmRNA が将来の身体や出産に影響を与える可能性は？

mRNA は体内では時間の経過とともに早期に分解されるため、長期にわたって体内に残存することはないと考えられています。mRNA は人の遺伝情報（DNA）に取り込まれることはなく、精子や卵子の遺伝情報に取り込まれることはないと考えられています。一方、現時点で妊婦に対する十分な知見はないとされています。



Q7 副反応が起きた時の補償は？

ワクチン接種によって健康被害が生じ、医療機関での治療が必要になったり障害が残ったりした場合には、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられます。

Q8 このワクチンを受けるに当たり注意が必要な人は？

以下に当てはまる方は、ワクチン接種を受けていいかどうか事前に主治医に確認をしてください。また、接種当日の診察時にも医師に伝えて下さい。

- 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患、免疫不全などの基礎疾患のある人
- 血液をサラサラにする薬剤を内服している人
- 過去にけいれんを起こしたことがある人
- 過去に予防接種を受けて、発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状が出た人
- 過去に薬や食品で重いアレルギー症状がでた人
- 妊娠中の人、妊娠している可能性のある人、授乳中の人



詳しくは、厚生労働省から配布される新型コロナワクチン接種の説明書と予診票を参照ください

Q9 接種するかしないか、最後はどのように判断するのですか？

ワクチンも他の薬剤と同様にゼロリスクはありません。

何らかの副反応が生じる可能性が必ずあります。病気を予防するという利益と副反応のリスクを比較して、利益がリスクを大きく上回る場合に接種が推奨されます。

Q1 で説明したように、ワクチン接種の利益には、個人のレベルと社会のレベルと二つの意味があり、両方を考慮に入れて判断する必要があります。国はワクチン接種を推進する立場ですが、最終的には国民一人一人が、利益とリスクを理解した上で、ご自身で判断することが必要です。判断するための情報は現時点では充分とは言えませんが、正しい情報を信頼できる情報源から得る必要があります。

下記をご参照ください。



参考文献と資料

- 日本感染症学会ワクチン委員会 COVID-19 ワクチンに関する提言 (2020年12月28日・第1版)
- 日本産婦人科感染症学会および日本産婦人科学会 (2021年1月27日見解)
- 厚生労働省ホームページ 新型コロナワクチンについて (以下の※1~3が閲覧できます)
- ※1 Q&A (ホームページがわかりにくいので、Q&A ボタンをすべて閲覧して下さい)
- ※2 新型コロナワクチン予防接種についての説明書 (ファイザー社製)
- ※3 新型コロナワクチン接種の予診票
- 「こびなび」ホームページ (一般の方向けの情報が公開されています)

